

第4回 雲出川水系中村川・波瀬川・赤川流域水害対策協議会 議事要旨

日時：令和7年7月23日（水）10:00～12:00

場所：三重河川国道事務所災害対策室＋WEB 会議

1. 開会

2. 挨拶

- 大吉 三重河川国道事務所長（中部地方整備局長代理）
 - 流域水害対策計画を策定して1年が経過し、計画に基づく河川整備、松阪市の雨水管理総合計画の策定、田んぼダム、貯留機能保全区域の指定に向けた検討など、着実に計画に基づく流域治水の取り組みを進めているところと認識をしている。
 - 本日は計画策定後、最初の協議会の開催となる。計画に基づく取り組みの進捗状況を確認し、フォローアップすることが重要である。

3. 議事

（1）雲出川水系中村川・波瀬川・赤川流域水害対策協議会 規約の変更について

- 異議なし

（2）流域水害対策計画のフォローアップについて

- 芳尾 豊地まちづくり協議会会長
 - 当地区では多面的機能支払交付金を活用し、率先して治水対策として田んぼダムを実施してきた。
 - 三重県に要望をしているが、大谷川の浚渫・伐採を進めていただきたい。水害の原因となるのはもちろん、繁茂し浅くなった河川を通り山から動物が下りてくることで、鳥獣被害もある。
→＜喚阿 三重県河川課長＞
大谷川の要望は把握しており、昨年度も一部、浚渫等の対応をしている。引き続き少しずつではあるが、対応を進めていく。
- 斎藤 須ヶ瀬地区自治会
 - 赤川の雨水浸透阻害行為の対象となった工事はどのような内容か。
→＜事務局＞
赤川流域において 1000m² 以上の田畑等に工場を建設する工事である。現在、開発者により貯留施設の工事中である。

- 赤川流域でも、鳥獣被害がある。当地区としても、浚渫・伐採を進めていただきたい

- 川口 三重大学教授

- 貯留機能保全区域の指定に向け、大和川での視察で参考となったことはあるか。

→＜事務局＞

大和川の例では、流域治水として地域貢献となることを訴え、同意を得たと聞いている。当地区でも治水効果を確認し、メリット・インセンティブを整理し、流域治水として地域貢献を訴えながら同意を得ていきたいと考えている。

- 津市のワンコイン浸水センサについて、活用実績はあるか。

→＜事務局＞

今まではパトロールなどで浸水を把握していたが、速やかな浸水の把握により、通行止めなど早期の対応が可能となった。センサ設置後は、アンダーパスの浸水に対する事故はなくなったと認識している。

- 活用実績を記録し、センサ設置の効果について定量的な把握に努めてほしい。

- 事業の進捗とともに、事業の効果（因果関係）を、できれば定量的に示されることが期待される。

→＜大吉 三重河川国道事務所長＞

雲出川流域では内水・外水の統合型の水害リスクマップの提供を予定しており、想定最大規模だけではなく、低頻度の出水や、事業実施による浸水被害の軽減効果の想定をお示しする予定である。同様の取り組みとして次回の協議会では事業の実施による浸水被害の軽減効果等の見える化を検討したい。

- 芳尾 豊地まちづくり協議会会長

- 貯留機能保全区域の、優先して検討をしている地区の選定理由は何か。

→事務局

浸水が想定され、河川沿いに面的に水田が広がる地域であり、貯留する水田等の機能がなくなった場合、宅地等への浸水被害が懸念される地区を優先して指定の検討をしている。

- 松尾 中部大学名誉教授

- 効果をはっきり示すことは難しいと思うが、定量的効果を把握しながら計画を進めてほしい。

4. 閉会

- 喚阿 三重県県土整備部河川課長（三重県知事代理）
 - 流域の治水安全度の向上の為には、流域水害対策計画に基づくハード整備の加速化・流出抑制対策の推進・水害リスクを踏まえた土地利用など総合的な浸水対策を計画的に進めていくことが重要である。
 - 引き続き、国・県・市が連携し、着実に計画を進め、フォローアップでは効果が見えるようにしていきたい。

以上